



栃木第四小学校

四小学校だより

向上無限

(こうじょうむげん)

令和8年2月号

発行日 令和8年2月5日

文責 小倉 隆史(校長)

「冬来たりなば春遠からじ」

毎日寒い日が続いていますが、校庭の木々は芽吹き、春の足音が聞こえてきています。

令和7年度も残すところ1か月あまりとなりました。学校では卒業していく6年生やお世話になったボランティアさんに感謝の気持ちを伝えようと準備を進めているところです。子どもたちの心温まる活動を、教職員と保護者・地域の皆様とともに育てていきたいと思ひます。引き続きご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校内給食週間1/26 ~ 30

1月は、お正月献立をはじめスペシャル献立が続き、子どもたちも職員もいつも以上に楽しく、おいしく給食をいただきました。改めて栄養と愛情いっぱいの給食に関わってくださる方々への感謝の気持ちをもつことができました。

日本の学校給食の発祥は、明治22年山形県鶴岡町(現鶴岡市)の私立忠愛(ちゅうあい)小学校とされています。明治22年に始まって以来、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。

戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA(Licensed Agencies for Relief in Asia:アジア救済公認団体)から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から、学校給食が再開(「学校給食実施の普及奨励について」昭和21年12月11日、文部、厚生、農林三省次官通達)されました。

昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない、1月24日から1月30日までの1週間は「学校給食週間」としました。

子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われます。

【文科省：全国学校給食週間より抜粋】

新入生保護者説明会・子育て講座

1月30日、令和8年度に本校に入学するお子様の入学説明会を実施しました。保護者の皆様に本校の教育について、入学までの準備等についてお話しさせていただいたり、登校班の確認をしていただいたりしました。

かわいい1年生の入学を、職員、在校生一同楽しみにお待ちしております。



学校運営協議会【2月3日(火)】

令和7年度の学校評価についてのアンケート結果から見えてきた、今年度の成果と課題を確認し、委員の皆様からご意見をいただきました。成果として、児童や職員の頑張りへの称賛や労いのお言葉は大変励みになりました。課題については、解決のための対策をともに考えていただきました。委員の皆様、一年間ありがとうございました。



<学校運営協議会委員の皆様のご意見（一部抜粋）>

- ・PTAの方々が、様々な学校行事への協力が昨年度より多くなり、家庭・地域の連携が見られるようになったことは素晴らしいと思う。
- ・あいさつに関しても昨年度より多くなってきていると思う。
- ・タブレット端末の使用については、紙と鉛筆を使った学習を重視しながら、探求学習の手段として今後も使用していく方策を模索していくとよいのではないかな。

ボランティアの皆様 1年間 お世話になりました



【読み聞かせボランティア】



【家庭科ボランティア】



【茶道体験ボランティア】



【花壇ボランティア】



【昔遊び体験ボランティア】



【のこぎり体験ボランティア】



今年度、様々な体験をするために多くのボランティアの皆様にご協力をいただきました。充実した活動ができたのもボランティアの皆様のおかげです。来年度もよろしくお願いいたします。